

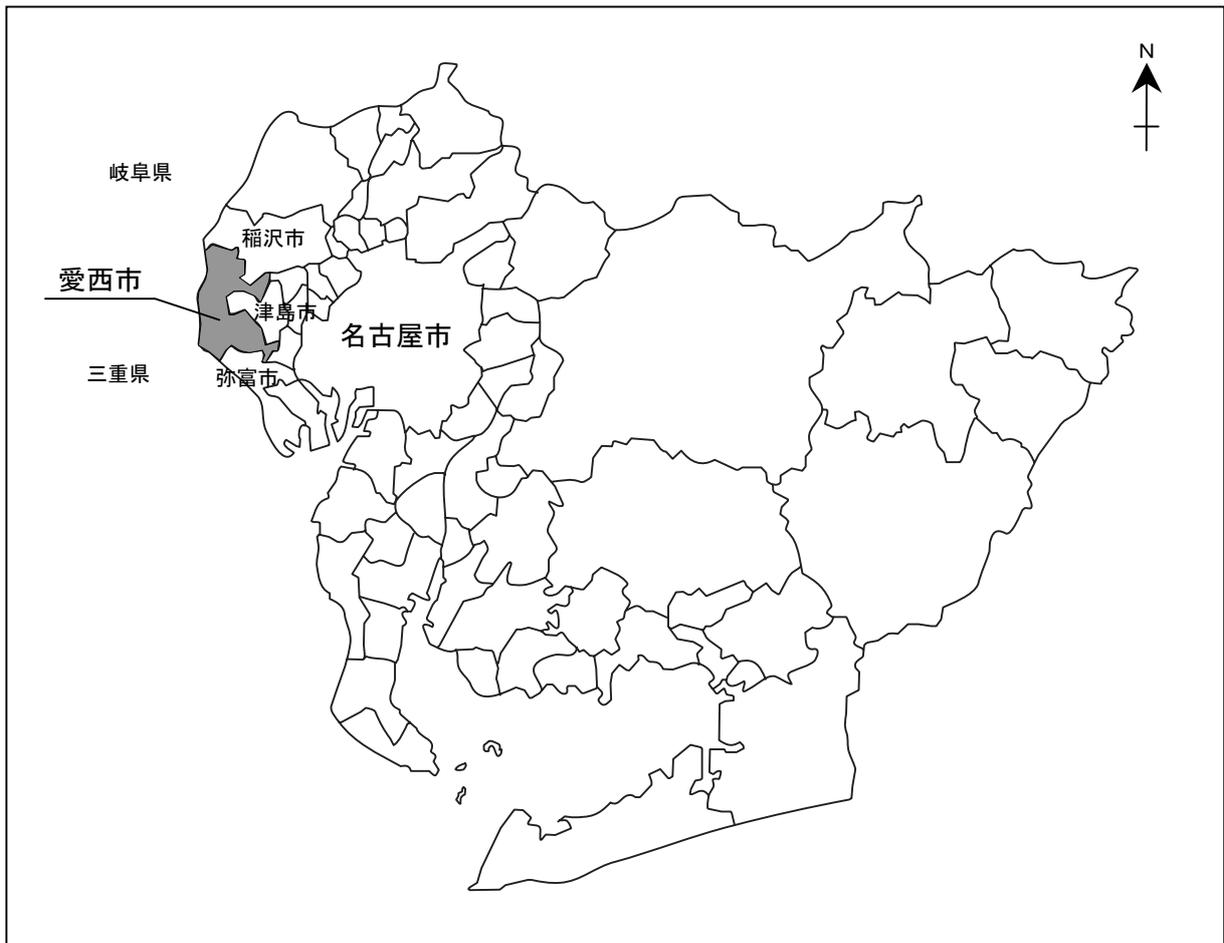
第3章 現況調査

3-1 愛西市の位置

本市は愛知県の西部に位置し、海部地方に属している。また、中部圏の中核都市である名古屋市より西方 20 km の位置にある。

平成 17 年 4 月 1 日に佐屋町、立田村、八開村、佐織町の 2 町 2 村が合併して誕生した面積 66.63 k m² の都市で、北は稲沢市、東は美和町、津島市、南は蟹江町、弥富市、西は木曾川を挟んで三重県桑名市、岐阜県海津市に接している。

図 3-1 位置図



3-2 自然的条件調査

1) 気象環境調査

本市の気候は太平洋側気候である。夏は高温多雨、冬は小雨乾燥であり北西から伊吹おろしが吹く。霜は11月中旬より4月初旬まで降りるが、降雪は少ない。

表3-1 月別平均気温

単位：℃

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平成14年	4.6	5.5	9.7	15.0	18.5	22.3	27.3	27.7	23.4	17.6	9.1	6.5	15.6
15年	3.5	5.5	7.3	13.9	18.7	22.3	23.3	26.3	24.0	16.2	13.7	7.0	15.1
16年	4.1	5.8	8.3	14.9	19.1	23.4	28.1	26.7	24.4	17.7	13.9	8.4	16.2
17年	4.5	4.6	7.2	14.6	18.1	23.9	26.5	27.8	25.0	18.7	11.2	3.3	15.5
18年	3.5	5.0	7.1	12.3	18.2	22.8	25.6	28.0	23.5	19.2	12.9	7.2	15.4
最高	16.9	17.8	20.0	28.9	29.3	34.5	37.5	37.1	34.8	29.4	24.2	19.1	27.5
最低	-4.5	-3.7	-1.1	2.0	7.5	14.2	18.1	9.9	11.6	5.6	1.4	-3.2	4.8

出典：愛西市の統計

表3-2 月別降水量

単位：ミリ

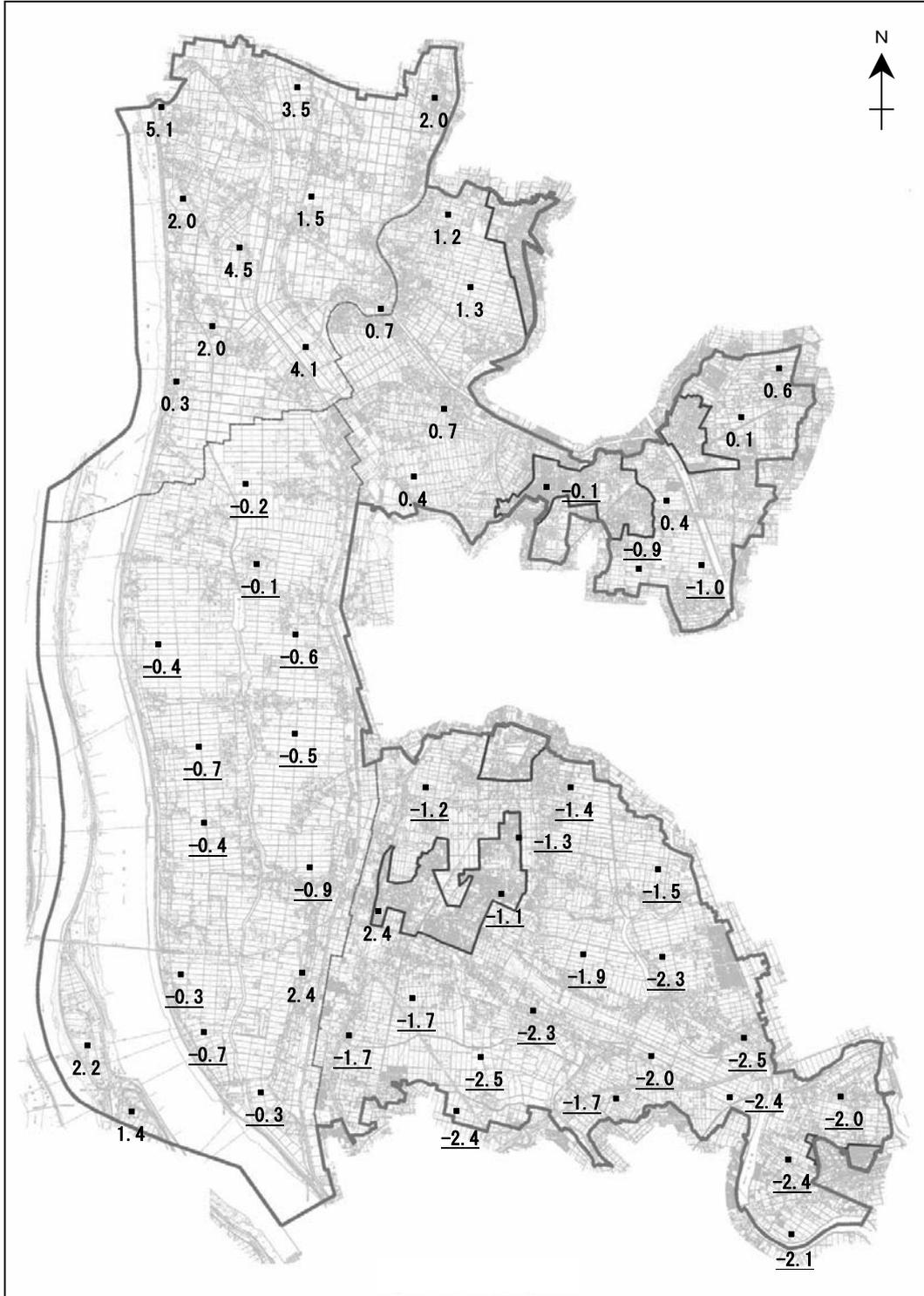
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平成14年	64.0	26.0	99.5	109.5	87.0	14.0	142.5	64.5	145.0	154.0	42.0	76.0	1,024.0
15年	89.0	45.6	96.0	158.0	138.0	167.0	321.0	203.0	124.0	89.0	173.0	33.0	1,636.6
16年	16.5	38.0	91.0	81.0	233.5	167.0	78.5	230.5	159.0	382.5	104.0	108.0	1,689.5
17年	7.0	68.0	124.5	71.0	110.0	64.8	218.5	79.5	75.0	75.5	60.0	48.5	1,002.3
18年	58.0	122.0	129.5	88.0	188.5	272.5	272.5	70.5	164.5	110.5	67.0	91.5	1,635.0
日最大	50.5	59.0	62.0	88.0	76.5	111.0	1124.5	53.0	48.5	125.0	50.5	63.0	—

出典：愛西市の統計

2) 地形調査

本市の地形は細かい起伏はあるものの概ね平坦で、佐織地区南部から立田地区、佐屋地区の大部分が海拔ゼロメートル地帯である。過去には地盤沈下が進んでいたが、現在は揚水規制等を行うことにより沈静化している。

図3-2 標高図



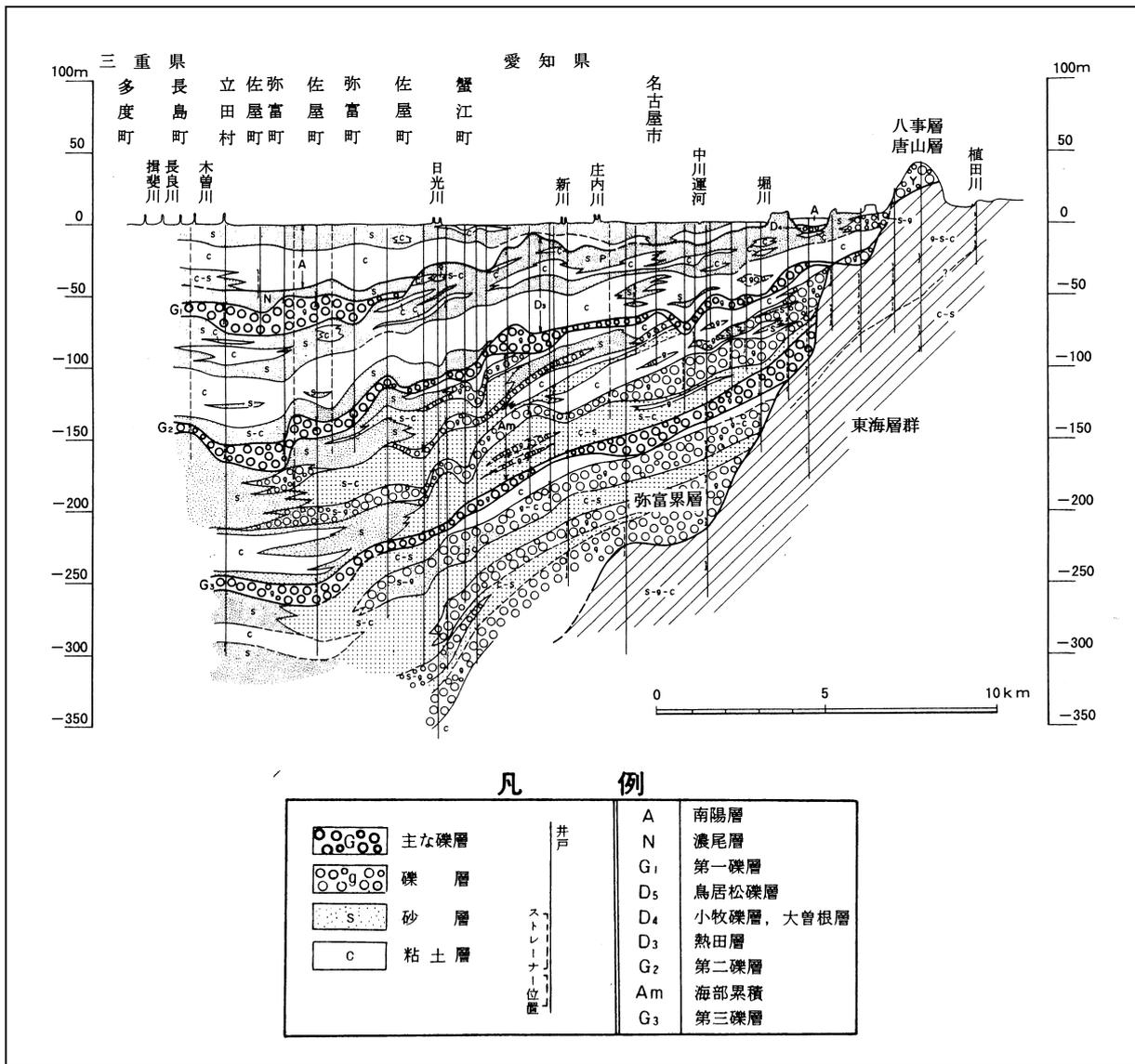
※標高は都市計画基本図（平成18年3月）より読み取った値である。

3) 地質・土壌調査

本市の地質は、濃尾平野の一角をなす広々とした沖積層である。最終氷河期の低水海面に対応して形成された木曾川水系の旧河谷が後氷河期の海面上昇に際して沈水し、そこに木曾川等から河川搬出物が堆積してできた地層である。

沖積層の下底は木曾川の河川礫層、すなわち沖積層基底礫層があるが、その上には下部から下部砂層、沖積泥層、上部砂層、陸成泥層になっており、このうち沖積泥層は最も軟弱で含水比も高いため、圧密収縮による地盤沈下の主要な要因となっている。

図3-3 地質図



出典：最新名古屋地盤図（1988年 土質工学会中部支部編著）

※地名は旧市町村のものである。

4) 緑の現況調査

本市の緑は、その大部分が水田や畑により構成されている。樹林地は極めて少なく、自然林がなく、二次林や人工林は社寺林や屋敷林として存在している。

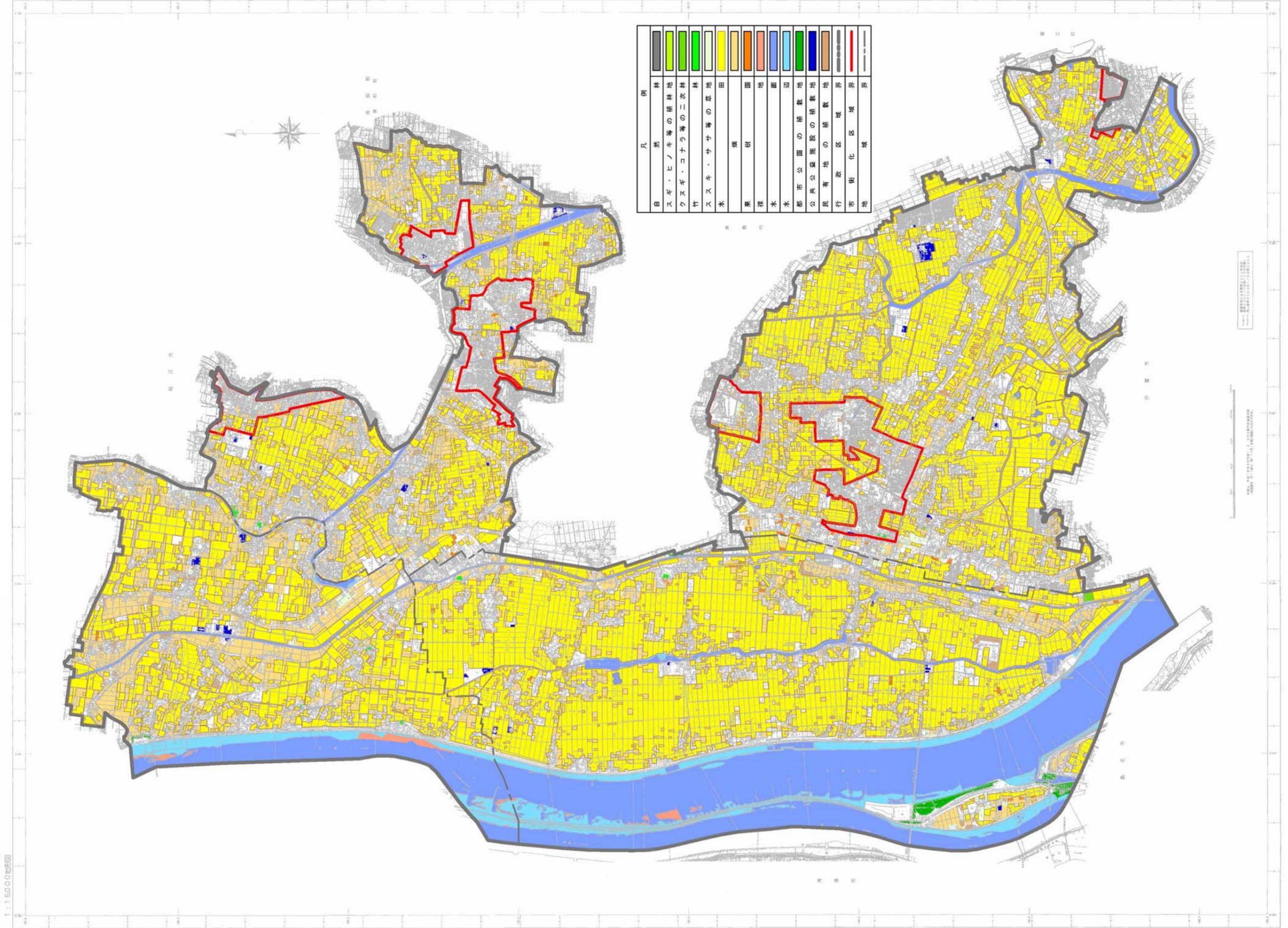
また、木曾川をはじめとする多数の河川があり、水面の面積も多い。

表3-3 緑の現況量調査

区 分	市街化区域 (ha)	市街化調整区域 (ha)	都市計画区域 (ha)	備考
自然林	—	—	—	
スギ・ヒノキ等の植林地	—	0.3	0.3	
クヌギ・コナラ等の二次林	—	1.6	1.6	
竹林	0.2	1.3	1.5	
スズキ・ササ等の草地	1.1	24.6	25.7	
水田	17.8	2,681.5	2,699.3	
畑	11.0	700.2	711.2	
果樹園	0.2	9.0	9.2	
裸地	—	13.8	13.8	
水面	2.1	846.9	849.0	
水辺	—	183.2	183.2	
都市公園の植栽地	—	13.4	13.4	
公共公益施設の植栽地	0.7	9.8	10.5	
民有地の植栽地	1.8	20.6	22.4	
合 計	34.9	4,506.2	4,541.1	

※面積は図上計測による。

図3-4 緑の現況図



5) 動植物相調査

本市には特筆すべき動植物相はないが、河川や水田を中心に水生生物や水辺を好む動植物が生息し、多様な生態系が保たれている。

表3-4 生息している可能性がある希少野生動植物

分類群名	種名	分類群名	種名
は虫類	スッポン	維管束	オキナグサ
貝類	イシガイ		カザグルマ
	カラスガイ		カミガモシダ
	モノアラガイ		カモノハシ
昆虫類	オオクワガタ		カワヂシャ
	ヤマトモンシデムシ		カワラアカザ
	ミヤマカラスアゲハ		カワラサイコ
	カワラハンミョウ		キムヨウラン
	キバネキバナガミズギワゴミムシ		キソガワシシウド
淡水魚類	メダカ		キヌヤナギ
鳥類	アカアシシギ		クマガイソウ
	オオタカ		コイヌガラシ
	タカブシギ		コウガイモ
	タマシギ		コウホネ
	チュウヒ		ササバモ
	ハイイロチュウヒ		サンショウモ
	ハヤブサ		シュスラン
	ヒクイナ		スハマソウ
	ミサゴ		セイタカハリイ
両生類	ダルマガエル		セキショウモ
哺乳類	カワウソ	セッコク	
維管束	ウスゲチョウジタデ	タカネマスクサ	
	ウスバシケシダ	タコノアシ	
	オオアカウキクサ	チャシバスゲ	
	オオアブノメ	ヤマトキノウ	
	オオクボシダ		

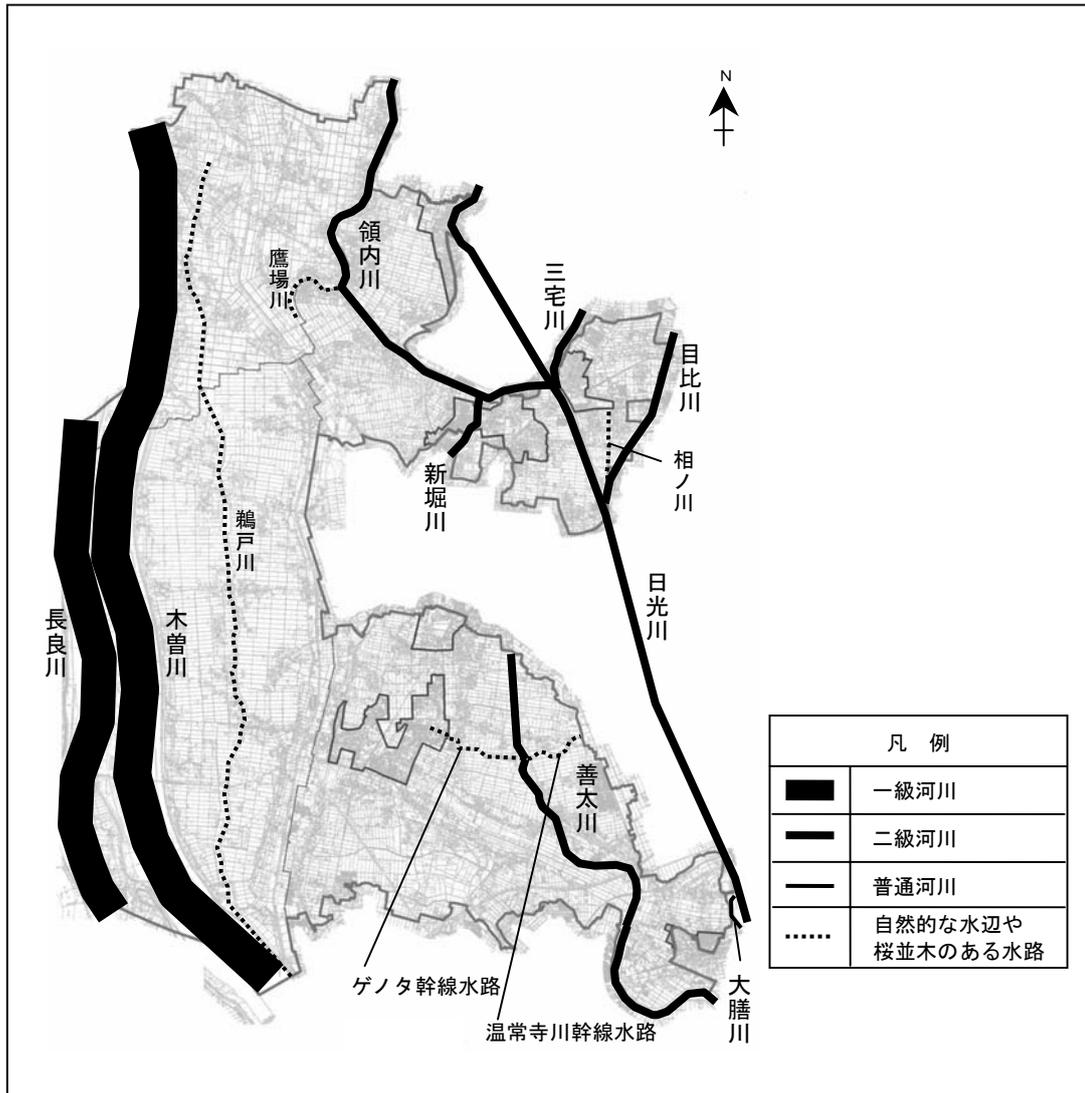
資料：愛知県生物多様性情報システム（愛知県HPより）

6) 水系調査

市内を流れる河川は、一級河川の木曾川、長良川のほか、二級河川の日光川、善太川、領内川、三宅川、目比川、新堀川、普通河川の大膳川がある。概ね河川改修が進み、木曾川の河川敷は良好な緑地となっている。

市内には多くの水路もあり、整備が進んでいる。鵜戸川や相ノ川、ゲノタ幹線水路では桜並木が整備されている。

図3-5 河川・水路図



7) 土地自然特性調査

河川・水路は水辺環境の重要な核となる要素であり、本市では木曾川、日光川、善太川、鶴戸川などがあげられる。これらは魚類などの生息地ともなっている。

伝統的・歴史的風土を代表する緑としては、社寺の緑や塚などの歴史的痕跡に伴う緑があげられる。

文化的意義を有する緑としては、祭りが催される神社の緑や河川・水路沿いに植えられた桜並木があげられる。

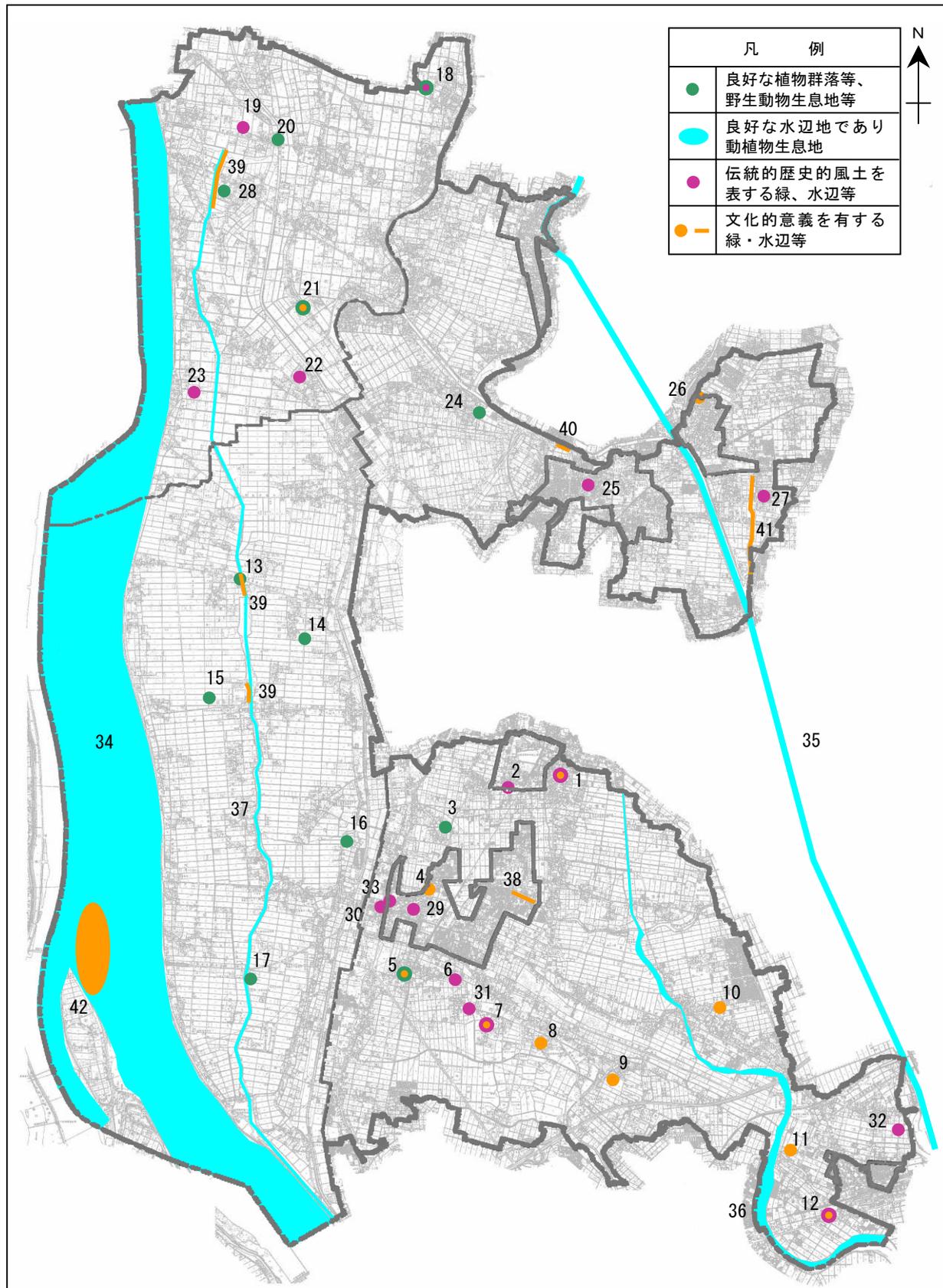
これらの緑は野鳥の生息地ともなっている。

表3-5 土地自然特性現況

図面 対照 番号	区 分	規模 (ha)	主な内容等
1	伝統的・歴史的風土を代表し、かつ文化的意義を有する緑、水辺等	0.35	若宮八幡宮・大聖院〔市指定無形民族文化財管粥神事〕(日置)
2	伝統的・歴史的風土を代表する緑、水辺等	0.22	由乃伎神社〔式内社の海部郡八座の一つ〕
3	良好な植物群落等、野生動物生息地等	0.26	信力寺
4	文化的意義を有する緑	0.38	天神社〔石取り祭〕・浄法寺
5	良好な植物群落・野生動物生息地等であり、文化的意義を有する緑、水辺等	0.37	星大明社〔国重要無形民俗文化財尾張津島天王まつり、石取り祭、神楽〕
6	良好な植物群落等	0.19	八幡社(東保)〔市指定天然記念物クロマツ〕
7	伝統的・歴史的風土を代表し、かつ文化的意義を有する緑、水辺等	0.12	八幡社(西條)〔県指定建造物本殿〕〔石取り祭〕、地藏堂〔もち投げ〕
8	文化的意義を有する緑	0.12	八幡社(東條)〔石取り祭、手踊り〕
9	文化的意義を有する緑	0.19	八幡社(本部田)〔獅子舞、神楽〕
10	文化的意義を有する緑	0.59	大井神社〔神楽〕・善福寺
11	文化的意義を有する緑	0.06	八幡社(鬮江)〔子ども獅子、神楽〕
12	伝統的・歴史的風土を代表し、かつ文化的意義を有する緑、水辺等	0.16	富士浅間社〔獅子舞、神楽〕
13	良好な植物群落等、野生動物生息地等	0.17	八幡社(戸倉)
14	良好な植物群落等、野生動物生息地等	0.12	八幡社(四会)
15	良好な植物群落等、野生動物生息地等	0.21	石神社
16	良好な植物群落等、野生動物生息地等	0.69	八幡社(山路)
17	良好な植物群落等、野生動物生息地等	0.18	富岡神社

図面 対照 番号	区 分	規模 (ha)	主な内容等
18	良好な植物群落・野生動物生息地等 であり、伝統的・歴史的風土を代表 する緑、水辺等	0.25	星大明神社
19	伝統的・歴史的風土を代表する緑、 水辺等	0.25	西光寺
20	良好な植物群落等、野生動物生息地 等	0.60	藤ヶ瀬神社
21	文化的意義を有する緑かつ良好な植 物群落等、野生動物生息地等	0.38	白山社〔市指定無形民俗文化財定納元服・オビシヤ〕
22	伝統的・歴史的風土を代表する緑、 水辺等	0.45	光耀寺
23	伝統的・歴史的風土を代表する緑、 水辺等	0.26	塩田神社
24	良好な植物群落等、野生動物生息地 等	0.42	津島社（草平）
25	伝統的・歴史的風土を代表する緑、 水辺等	0.41	八幡社（根高）、釜地藏寺〔釜地藏伝説〕
26	文化的意義を有する緑	0.29	勝幡神社〔国無形民族文化財勝幡オコワ祭〕
27	伝統的・歴史的風土を代表する緑、 水辺等	0.08	奥津社〔古墳、県指定考古三角縁神獣鏡〕
28	良好な植物群落等、野生動物生息地 等	0.77	民有地
29	伝統的・歴史的風土を代表する緑	0.02	水鶏塚〔市指定史跡〕
30	伝統的・歴史的風土を代表する緑	0.01	東海道佐屋路佐屋三里の渡址〔市指定史跡〕
31	伝統的・歴史的風土を代表する緑	0.01	市江車車田址〔市指定史跡〕
32	伝統的・歴史的風土を代表する緑	0.01	大野城址〔市指定史跡〕
33	伝統的・歴史的風土を代表する緑	0.01	佐屋代官所址〔市指定史跡〕
34	良好な水辺地であり動植物生息地	—	木曾川、長良川
35	良好な水辺地であり動植物生息地	—	日光川
36	良好な水辺地であり動植物生息地	—	善太川
37	良好な水辺地であり動植物生息地	—	鶯戸川
38	文化的意義を有する緑	—	ゲノタ幹線水路の桜並木
39	文化的意義を有する緑	—	鶯戸川の桜並木
40	文化的意義を有する緑	—	領内川の桜並木
41	文化的意義を有する緑	—	相ノ川の桜並木
42	文化的意義を有する緑	—	国営木曾三川公園（東海広場（右岸））

図 3 - 6 土地自然特性現況図



3-3 社会的条件調査

1) 人口・面積調査

ア) 人口規模

①人口の総数及び増加数

本市においては、佐屋地域及び佐織地域において昭和40年代後半から名古屋市のベッドタウンとして開発が進み、急激な人口増加がみられた。人口は平成12年までは増加していたが、平成17年の国勢調査によると総人口は65,556人となり減少に転じている。

②人口の分布

平成17年国勢調査によると、市街化区域に居住する人口は19,566人で、本市人口の29.8%となっており、約7割の市民は市街化調整区域に居住している。

人口の分布を地区別にみると、約8割が佐屋地域と佐織地域に居住している。

③世帯数

平成17年国勢調査における本市の世帯数は19,889世帯となっており、人口とは逆に増加傾向が続いている。

表3-6 愛西市及び地域別人口の推移 (人)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
愛西市	62,983	63,143	64,216	65,597	65,556
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
佐屋地域	27,880	28,303	28,470	29,802	29,590
	44.3%	44.8%	44.3%	45.4%	45.1%
立田地域	7,970	8,040	8,353	8,327	8,116
	12.7%	12.8%	13.0%	12.7%	12.4%
八開地域	5,063	5,064	5,096	5,011	4,832
	8.0%	8.0%	8.0%	7.7%	7.4%
佐織地域	22,070	21,736	22,297	22,457	23,018
	35.0%	34.4%	34.7%	34.2%	35.1%

出典：国勢調査